

No.92 水害を想定した地域の「幼児センター」との合同避難訓練

- 管内 上川管内
■ 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
■ 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
■ 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
■ 取組のポイント

- 地域で想定される災害を理解させ、防災に対する意識の高揚を図る取組
- 地域と連携した防災教育活動を通じた、「危険予測能力」や「対応能力」の育成
- 地域における防災活動に、主体的に参画する意識の醸成

取組の実際

ねらい

- (1) 本校の周辺に天塩川が流れているなど、地域の特色等の理解を深め、災害が発生した際、生徒が主体的に危険を回避する行動ができるよう「危険予測能力」や実践的な「対応能力」を育成する。
- (2) 地域の学校として、本校生徒を対象とした避難訓練に留まらず「幼児センター」と合同避難訓練を行うことで、幼児と生徒同士の交流を深め、他者を思いやる心や自己肯定感を醸成する。
- (3) 教職員が、本校地域における被災の危険度を確認するとともに、生徒の安全を確保するための最善の方策を検討することで、災害発生時に迅速に対応することができる校内体制を構築する。

内容

- (1) 美深町内を流れる天塩川の洪水に備えるため、美深高等学校と隣接する「幼児センター」との合同による避難訓練を毎年実施している。
- (2) 平屋建ての「幼児センター」では、災害時の避難所に指定された高等学校に乳幼児を避難させることになっていることから、本校生徒が幼児の手をつないで階段を上り、本校舎の2階に迅速かつ適切に避難することができた。
- (3) 事前に指導した内容を踏まえ、高校生が避難時に、幼児に対し必要な声かけをするとともに、機敏な行動を心がけていた。また、避難時の体勢について、片方の手で口を押さえながら適切に避難することができた。



【避難の様子】

成果と課題

【成果】

- ・ 事前指導を充実させたことで、本校で想定される自然災害に対する「危機予測能力」を醸成することができた。
- ・ 本校生徒が、園児らの手をきちんと握り、幼児（弱者）への配慮を行い、災害時に果たすべき役割を体験したことで、自己肯定感を醸成することができた。
- ・ 避難訓練の実施後、教職員が課題等を検証することで、災害発生時に迅速に対応することができる校内体制の構築に向けた改善の方向性を明確にすることができた。



【校舎2階に避難する様子】

【課題】

- ・ 避難指示など「幼児センター」の先生の指示だけではなく、本校の教職員の指示でも行動ができるようにするため、事前の打合せ等を入念に実施する必要がある。
- ・ 年長組の園児が訓練の対象であったが、実際に災害等が発生した場合を想定し、年少組の避難誘導ができるよう本校生徒への事前指導を充実させる必要がある。
- ・ 場合によっては3階までの避難や、体育館への避難となるため、再度、指揮系統を含め、校内体制の点検や工夫・改善を図る必要がある。